

「土砂ためず流す方法を」区

天竜川や遠州灘海岸保全考えシンポ 南

天竜川や遠州灘海岸の現状や課題について理解を深め、未来の在り方を考えるシンポジウム(実行委主催、静岡新聞社・静岡放送後援)が1日、浜松市南区の可美公園総合センター1で開かれた。

大阪大大学院の青木伸一教授が講演し、天竜川や遠州灘の美し



遠州灘の海岸保全をテーマに講演する青木教授＝浜松市南区の可美公園総合センター

「天竜川と遠州灘海岸の課題と解決への道」と題したパネル討論も行った。遠州灘沿岸の松林などの保全に取り組む「海岸侵食災害を考える会」の長谷川武代表は昭和30年代ごろの砂丘の姿を取り戻したいと述べ、「地元住民の関心を高め、機運を盛り上げていきたい」と話した。

(浜松総局・寺坂裕貴)

静岡新聞社編集局調査部許諾済み

県など
**天竜川・遠州灘
シンポジウムを開催**

静岡県と浜松市、国土交通省浜松河川国道事務所は、浜松市内で天竜川と遠州灘の未来を考える「天竜川・遠州灘海岸シンポジウム」を開き、鈴木康友浜松市長をはじめ、沿岸自治体や建設関係者らが参加した。

主催者を代表し鈴木市長は「ダム整備により土砂の流量が減り、遠州灘の砂浜が減少している。ダムによって守られるものもあるが、美しい海岸を将来に残していくことも必要。さまざまな課題をクリアするため、関係者一丸となって考えていこう」とあいさつした。

シンポジウムでは、大阪大学の青木伸一教授が「遠州灘海岸の保全について」と題する講演・写真」を行った。他、静岡県河川砂防局長の長縄知行局長や浜松市の横山幸泰土木部長、国土交通省浜松河川国道事務所所長藤原文人、所長らが「天竜川と遠州灘海岸の課題と解決への道」をテーマに意見を交わした。



この記事・写真は日刊建設通信新聞社の許諾を得て掲載しています。